

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.82

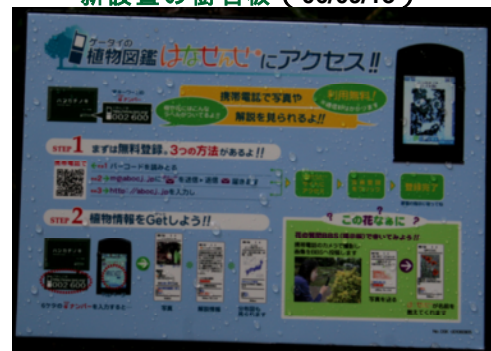
2006/09/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

新たな戦力登場！！



新設置の樹名板 (06/09/13)



新戦力の「樹名板」と設置作業 (06/09/13)

本年は酷暑のシーズンのウィークデイも来訪者が絶えなかった。加えて子ども連れのリピーターが増えだしたことがうれしいことである。いずれの訪問者も「観るものが多いこと・整備が行届いていること・保全に対する取り組み方が伝わってくる・・・」

等の講評を得られるようになってきました。これはひとえに会員の日頃の保全活動への情熱がもたらしたものと考えられます。が本会からいえば、これだけ生物多様性に恵まれたフィールドで活動できる喜びと責任以外の何者でもないのですが・・・今年も3月の豪雪の後始末から始まった保全作業も順調に推移しています。がフィールドが広いだけに、抱えている課題も多く未処置のものが多いのも事実です。があせることなく地道に活動を進める以外方法はありません。何せ自然が相手ですから、今日明日では状況が変化するので、変化を確認しつつ次の手を考えることの繰り返しとなります。今号は、現在進行中の保全作業を概観することにします。最も新しい事業としては、上の写真にある「樹名板」を設置したことです。従来設置していた樹名板が老朽化してきたため、本年の「おうみ NPO 活動基金」の助成で設置が可能となったものです。樹名板の右下にある数字を使って携帯電話で、その樹木の画像や解説が聞けるという強者です。未だ設置枚数が少ないのが課題ですが、順次増加してゆくことで充実した観察が一人でも可能となります。

携帯電話で解説が聞ける



トキソウ



人工培地に播種作業 (06/08/25)



昨秋採種した希少種の実生の植替え (06/09/11) ウ

希少種の増殖作業も順調に進行しています。トキソウ (左の写真) については、昨年秋湿原から3株採取したものを渡辺理事が慎重に栽培を続けていただいており、本年は株数が増加し後数年で湿原へ戻すことが可能だろうとの報告を頂いています。トキソウよりさらに分布が少ないものについては、現地で人工交配を実施し、その種子を採取し人工培地に播種 (写真中央) し発芽を待っている段階です。この他昨秋採種したブナ・ノハナショウブ等も順調な生育を続けています。ブナの実生は既に紅葉し始めています。「やまかど・森の楽舎」前で生育状況をご覧下さい。



湿地を被うヒツジグサ (06/08/20)

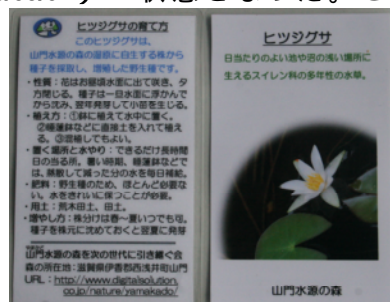


栽培見本の鉢植え (06/09/02)

「やまかど・森の楽舎」附属湿地に3年前に1株植栽したヒツジグサは、現在では開水面を覆い尽くす寸前までに増殖した。このままでは、トンボ類の産卵等にも支障をきたす状態となった。こ

で考えつかれたのが、事業費の多少の足しにでもなればと販売

することとなり、伊藤理事のお手参りの栽培解説カード付きである。9月2日の観察会時から販売を開始したがかなりの反響を呼んでおり、今後他の植物についても増殖を図っていくことになっている。



栽培解説カード

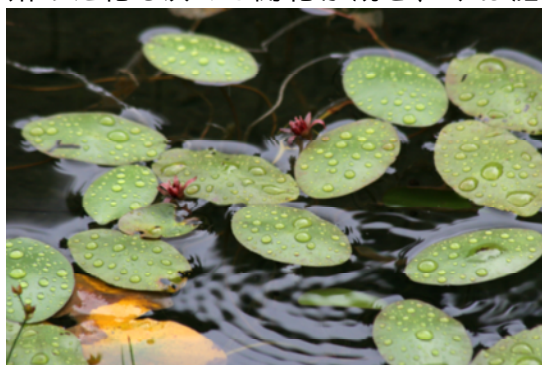


販売用ヒツジグサのポット

附属湿地も当初心配されたオオミズゴケも部分的には、上の湿原の状態を彷彿とさせるまでに順調な生育と拡大が進んでいる。またヒツジグサ同様ジュンサイも順調で、8月初

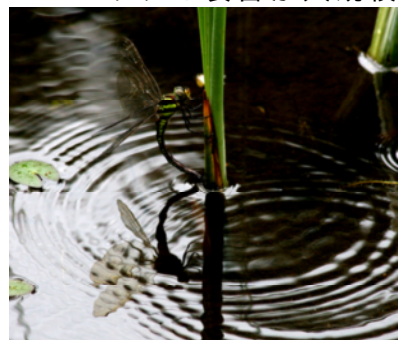


盛り上がったオオミズゴケ (06/08/26)



ジュンサイの花 (06/09/03)

ではないが進行している。現在目立った被害は、サワギキョウ・エゾリンドウ・リンドウ・ササユリ等の花芽の食害である。もっともヌタ場化した湿原の部分では、その後ミミカキグサが群生するということもあり、これが自然の保全にも一役買っているという面も否定できない。が附属湿地



オオルリボシヤンマの産卵



ミミカキグサの群落 (06/08/16)

栽培は、上の湿原でのこうした被害が発生しても種を保存していくという役割を持っていることを念頭に管理する必要がある。

「四季の森」の土石流堆積物の分布域がほぼ全域、深いササで被われることとなり、災害教育フィールドとしての価値が低下しており、現在全面的な草刈り・灌木伐採を実施している。この作業は土石流発生の源流まで続ける予定である。会員の皆さんは、「四季の森」を通られる際、刈り取ったササや灌木を何力所かに集める作業を短時間でも実施していただくようお願いします。



刈取りが終わった所の風景 (06/09/14)

